

アニメによる地域経済活性化の実証的研究

経営学部 経営学科 梅村ゼミ
B4R11190 山根 杏珠

【卒業論文概要】

近年、日本のアニメは国内からも国外からも大きな注目、支持を受けており、それにより発生する経済効果も著しいものである。現在所属しているゼミナールで地域政策を専攻し、まちづくりについて学んでから地域活性化には様々な方法があると学んだ。そして、私の好きなアニメを活用して地域活性化に取り組んでいる街もたくさんあると知り、関心を抱くようになった。

本論文の目的は、アニメによる町おこしで有名な「あの日見た花の名前を僕達はまだ知らない。」(埼玉県秩父市)、「らき☆すた」(埼玉県久喜市)の2つの市を対象に研究、比較分析を行い、アニメファンによる聖地巡礼や、アニメに関する市が行っているイベントによる町おこし効果や、経済効果がどのようなものかを明らかにすることを目的としている。

秩父市産業観光部観光課様(「あの花」と久喜市商工会鷺宮支所様(「らき☆すた」)に調査に協力していただいたところ、それぞれの市で共通する部分や、行政の立場(「あの花」)からのアニメの関わり方と商工会の立場(「らき☆すた」)からのアニメの関わり方で異なる部分があることが視えてきた。まず、共通する部分としてはどちらもアニメファンをとっても大切にしていることである。イベントを考えると、どうしたらアニメの魅力が伝わり楽しんでもらえるかを意識していると聞き、ファンとしては嬉しく思った。また、両者とも方法などは異なるがリピーターを大事にしていることが分かった。

異なる部分としては、商工会の方が行政よりも受け身でありつつ、自由な印象を受けた。行政は若い人を呼び込みたいという理由からイベントを始めたが、商工会は聖地に訪れてくれるファンへの恩返しという気持ちから始めた。今後の課題、戦略にしても行政は秩父3部作へ続くように今ある有名な2作をいかに持続していくかを課題に挙げていたが、商工会はファンの方が来てくれたらそれに対して恩返しをする、思いついたら何かやるという姿勢であった。ここに受け身でありつつ、行政より自由な部分を感じた。

異なる部分もあるが、両者とも今でもファンに愛されている。その場所、アニメ、制作会社との関係などにいかに合った政策でやっていくかが大切なのではないかと感じた。今回の調査でアニメが街にもたらす影響もたくさん視えてきたため、それに対する自身の考察も記した。